

戦後、伊勢修学旅行はなぜ続いたのか、

またどのように広島修学旅行に転換したのか

松岡 勲

伊勢修学旅行の記憶

二〇二二年、韓国の翰林^{かんりん}日本大学校のキム・ヒョンアさん（日本学研究所）が「在日朝鮮人の伊勢神宮修学旅行と戦後教育」を発表した。その中で、「戦後も大阪府の小学校の修学旅行では伊勢神宮参拝を続けていたこと、在日朝鮮人児童が戦前と変わることなく伊勢神宮参拝を強制させられていたこと」を明らかにした。その報告を聞き、私の記憶が蘇った。私の新任校の修学旅行も伊勢だった。一九七一（昭和四六）年、東大阪市立長瀬南小学校。

修学旅行出発時に子どもたちが校庭に集められ、業者から一斉に「赤福餅」の注文票が配られた。その場で注文票に記入させ、回収。修学旅行の終了時、校庭に集められた子どもたちに、注文した赤福餅が配られた。戦前からの天皇制に根を持つ伊勢修学旅行と業者との結びつき、教師として伊勢神宮参拝に加担した嫌な記憶が今も残っている。嫌な記憶は、父の戦死、父を死に至らしめた天皇制と強固に結びついている。

もう一つの記憶は、一九五五（昭和三〇）年、私が六年生の時

の修学旅行だ（茨木市立茨木小学校）。やっぱり行き先は伊勢。この時、足指を骨折して参加はできなかった。修学旅行が終わり、担任の先生とクラスの友だちがお土産を持って、お見舞いに来てくれた。お土産は赤福餅だった。

長らく記憶の底に眠っていた伊勢修学旅行。今回、その戦後における復活と、どのように行き先が広島修学旅行に移行していったのか、最後に修学旅行の現状までを調べてみようと考えた。調査対象は、私が小学校を卒業し今も住む茨木市、大阪府の教員としてスタートした東大阪市、そして大阪府下市町村に強く影響を与えている大阪市であった。

戦前の伊勢修学旅行

茨木市立文化財資料館に市立小中学校の『周年記念誌』が収蔵されている。そこで戦前の伊勢修学旅行の記述を調べる。並行して大阪府立図書館で同文献を探した。戦前の伊勢修学旅行に関する先行研究は相当数あった。

伊勢修学旅行は昭和戦前期に全国的に広がりを見せた。

「伊勢神宮への修学旅行は、外宮・内宮参拝者の合計で一九三九（昭和一四）年に二二〇万人とピークに達し（中略）戦況の悪化してきた一九四三（昭和一八）年にも一二万人の生徒児童が訪れている。」「神宮参拝という直接教授によって、皇室崇拜・敬神崇祖の念を養成するという教育目標を持っていた。」

太田孝著『昭和戦前期の伊勢参宮修学旅行と旅行文化の形成』
（古今書院刊）

この時期は満州事変、傀儡国家・満州国の建国、盧溝橋事件を発端にした日中戦争勃発から太平洋戦争に至る時期であり、天皇制と天皇制教育が伊勢修学旅行に強く結びついていた。

東京その他遠方からの伊勢修学旅行には、国家や都道府県・市町村において、運賃割り引きの便宜や行政的配慮等が計られたが、戦況の悪化によって戦前期の伊勢修学旅行は終わる。

「一九四三年の文部次官通牒によって、学徒動員体制の確立と国策重点輸送への協力が強いられ、初等科児童に対する参宮旅行は、私鉄を利用する近県以外は認められなくなった。つまり、これをもって、東京市の参宮旅行は終焉を迎えたのであった。」

橋本萌著『伊勢参宮旅行』と「帝都」の子どものたち』（六花出版刊）

太平洋戦争の開始と国家総動員体制の確立、そして戦況の悪化が戦前の伊勢修学旅行を終わらせた。

次に戦前の伊勢修学旅行は茨木市においてどのように行われたのか、同市各小学校の『周年記念誌』から見てみよう。戦前の茨

木市では、一番古い伊勢修学旅行の事例は大正一〇年頃に始まり、昭和戦前期に拡大し、戦況の悪化した一九四四（昭和一九年）に終わっている。

〈遠足・修学旅行〉

「そして宿泊をとまなうものを卒業旅行や参宮旅行と呼びます。この当時は「お伊勢さん」へ行くのがあたり前であり、伊勢神宮へ参るのが第一の目的でした。」

『創立百周年記念誌 とよ川』

〈戦中を語る 修学旅行〉

「修学旅行といえば、「お伊勢さん」と決まっていました。この学校も同じで、豊川小学校は旅館も毎年麻野館でした。修学旅行当日の集合場所は宿川原で、それも朝の暗い中、ちようちゃんの明かりで行ったものでした。そして宿河原から茨木駅まで歩き、それから電車を乗り継いで行きました。そして戦争がいよいよ厳しさを増した昭和一八年は、三島郡が集団で修学旅行をした覚えがあります。確かこれが最後で、昭和一九年、二〇年は中止になったのではないかと思います。女の子はモンペ姿でした。」

『創立百周年記念誌 とよ川』

〈昭和一二年度 修学旅行〉

「当時の修学旅行は一泊で伊勢神宮に参拝した。楽しい修学旅行のコースは今も変わっていない。」

『磨光 茨木市玉櫛小学校百周年史』

「伊勢方面へ二泊三日で行きました。今のようには道路も交通も整備されていなくて不便でしたので、茨木駅まで歩いて行ったり、上六駅までトラックの荷台に山積みになって行った記憶があります。それでもつらいとは思わず楽しかったです。」

『忍頂寺 創立百周年記念誌』

〈伊勢参宮旅行〉

「伊勢参宮旅行（尋常六年）は大正一一年頃から一泊二日で行われた。後、大正一四年より奈良・大阪を加え、二泊三日として充実して行われた。」

『清溪 創立一一五周年記念誌』

〈遠足・旅行〉

「六年生の伊勢・奈良修学旅行は最も思い出深くエピソードも多い。年度によって一泊二日の年と二泊三日の年があった。茨木市駅から汽車で京都・亀山経由で宇治山田駅まで行った。昭和のごく初めでは学校から茨木駅まで夜明前に起きて出発、大部分の生徒はわらじ履きで歩いた。学校まで最も遠い高山地区の生徒の苦労は並大抵でなかった。当時府道を走る茨木広運社の乗合自動車（後に茨木妙見乗合自動車と改名）は箱馬車の様な小さなバスで運行回数の少なく、全員揃って乗る事は無理であったし、当時は大人もあまりバスを利用せず歩いた。昭和一一年度の旅行では少しづめであったがバスに乗せて貰ったようである。第一日目の宇治駅に着くや否や親から頼まれたお土産の赤福餅・生姜板をわれ先に買い込み、以後重い荷物をもてあまし先生に笑われた事など

話題に事欠かない。」

『清溪 創立一一五周年記念誌』

〈戦争中の伊勢参宮〉

「小学校六年生の伊勢参宮は、二見ヶ浦と奈良で泊まる二泊三日の旅行として続けられて来たが、戦時体制の強化の中で様子が変わって来た。

一・昭和一六年一月一日、国民学校初等科と改称された年の参宮は、奈良見学が儉約され、二見での一泊となり太平洋戦争開戦直前の伊勢参りとなった。児童は自分の食べる米を旅館に持参した。

二・昭和一九年から戦況悪化のため「参宮は出来なくなった。」

『清溪 創立一一五周年記念誌』

小学校以外で茨木市立養精中学校が尋常高等小学校から国民学校に移行後も伊勢修学旅行が続いたとの記述があった。

「昭和一六年に国民学校令が公布され、養精高等小学校も養精国民学校と改称された。（中略）第二次世界大戦へと突入し、学校教育は国防化の体制へと進展していった。」の後に「昭和一七年伊勢旅行、伊勢神宮」とキャプションのある写真が掲載されている。

『輝 養精一〇〇周年記念』

戦後の伊勢修学旅行

さらに茨木市教育委員会に戦後の修学旅行の推移に関する資料を問い合わせた。市内の小学校四校（豊川小学校、玉島小学校、玉櫛小学校、茨木小学校）を訪ね、『卒業アルバム』の中の修学旅行の写真を調べた。

先に触れたキム・ヒョンアさんの報告では、伊勢修学旅行の戦後における復活は、「一九七一年、学習指導要領」において「小学校教科書に天皇制神話復活、天皇が登場」した頃が画期とされていた。私の経験から戦後の伊勢修学旅行の復活はもっと早いのではないかと疑問に思った。その理由は、前述したとおり、私が小学校六年だった一九五五（昭和三〇）年に茨木小学校ではすでに修学旅行は伊勢であった。さらに東大阪市で教員としての最初に修学旅行を引率した修学旅行も伊勢だった（一九七一年）。当時先輩教員から聞いたのは「ずいぶん前から伊勢修学旅行だった」とのことだ。それで敗戦後のアメリカ軍の占領中は伊勢修学旅行は中断しても、戦後もっと早く伊勢修学旅行は復活したのではないか、その後継続したのではないかと考えた。そのように思ったのは、戦没者遺児の靖国参拝の研究をした時、占領中の中断を除いて、戦後も戦前と同様に参拝が継続していたからだ。伊勢修学旅行も同様ではないだろうか。伊勢修学旅行の戦後の歴史について調べたいと思った。

米軍占領中の修学旅行について、太田孝著前掲書では次のように言う。

「アメリカ占領中の一九四五（昭和二〇）年一月一日に「神道指令」が出された。それに関わって、文部省は同時期に都道府

県に通牒した。文部書の指示を受け、東京都では次のように通達した。

（一）伊勢ノ神宮、明治神宮等に対スル遙拝ハ之ヲ取止ムベキコト（注意 宮城遙拝ハ差支ナシ）

（二）氏神等ニ対スル参拝ハ不可ナルコト（一八三ページ）

「戦後の」修学旅行の規制緩和は一九五〇（昭和二五）年頃からであるが、戦後の教育の地方分権で、修学旅行に関してもその実施基準は都道府県毎に指導された。」

（一八七ページ）

昨秋から調査に着手し、茨木市教育委員会（学校教育推進課）、大阪市教育委員会（初等・中学校グループ）、東大阪市教育委員会（教育推進室）を訪ね、修学旅行関係の情報を尋ねた。最終的には情報公開請求で文書を手に入れた。また各市の調査に入る前に学校現場に詳しい元教員から事前情報を入手後、茨木市の四小学校を訪ね、卒業アルバムで修学旅行の行先を調査した。

以下は其中で明らかになったことだが、その中の豊川小学校の『百周年記念誌』には戦前と戦後の修学旅行の移行について興味深い記述があったので、先に述べる。

（茨木市立豊川小学校）

茨木市立豊川小学校の創立百周年記念誌『とよ川』（一九九八（平成一〇）年一月刊）に豊川小学校の修学旅行の推移が掲載されていた。

（一）昭和初期～一九七四（昭和四九）年 伊勢方面 後半は、

鳥羽水族館にも行きました。

(二) 一九七五(昭和五〇)年(一〇月二九日〜三〇日) 姫路―岡山―倉敷―水島コンビナート この年、三重国体があり、伊勢方面の旅館がとれなくなり、岡山方面へ行き先を変えました。

(三) 一九七六(昭和五一)年(七月二日〜三日) 広島、宮島方面 平和学習の一環として、広島平和公園を訪れました。被爆体験の聞き取り学習もはじまっていました。宿泊は、宮島にとまりました。

(四) 一九九五(平成七年)(六月八日〜九日) 鈴鹿・明治村方面 この年、阪神大震災の影響で広島・宮島方面の宿泊が困難になり、急ぎよ鈴鹿方面へ行き先を変更しました。明治村の見学、鈴鹿サーキットなどは、この年だけとなりました。

(五) 一九九六(平成八)年〜現代 広島、大久野島方面 広島平和公園で聞き取り学習、平和学習に加え、宿泊先が宮島から大久野島に変わりました。大久野島での第二次大戦の聞き取り(注…毒ガス製造) 平和学習を一步先に進め、現代に至っています。

『創立百周年記念誌 とよ川』

後に豊川小学校に訪ね、卒業アルバムも調べたが上記の内容と同じだった。またK校長は教諭時代に『百周年記念誌』の編集員をしていたとのこと。米軍占領中の修学旅行に関する資料はなかったかと尋ねたが、「その時期の資料はまったくなかった。」とのことだった。

伊勢から広島修学旅行への転換

以下、茨木、東大阪、大阪三市での調査の結果を整理した。共通するのは、米軍占領期の資料がなかったことだ。そのため伊勢修学旅行が戦後一時中断したのか、それとも戦後も中断せず、続いたのか分からなかった。もし伊勢修学旅行が中断したとしても、いつ頃から復活したのかも不明だった。

〈茨木市〉

(一) 公開された「茨木市立小中学校 修学旅行行き先一覧」(学校教育推進課作成)では、二〇〇八(平成二〇)年以降の資料が残っていたが、それ以前については不明。「修学旅行行き先一覧」によると、二〇〇八(平成二〇)年の伊勢修学旅行は茨木小学校、清溪小学校、忍頂寺小学校、水尾小学校、郡小学校、白川小学校、彩都西小学校の七校で、その後徐々に減り、二〇一〇(平成二二)年には五校、現在では伊勢に行っているのは茨木小学校、水尾小学校の二校である。昨年度の「修学旅行行程表」が全校分公開されたが、先に触れた二校に関して、「伊勢神宮、おかげ横丁(見学・昼食)」「茨木小学校」、「伊勢神宮内宮」(水尾小学校)とある。退職教員Nさんの聞き取りによると、「一九七〇年代に先行組が広島へ、一九八〇年〜九〇年代にかけてほとんどが広島にくようになった。最後まで残った二校については、当時校長が超保守派で、校長と地域の保守勢力とが結びつき、伊勢修学旅行が続いた。その過去の遺制が今も残っている。伊勢から広島に変えるのに、現場教員はねばり強くがんばったが、大変苦労した。」(二) 私が卒業した茨木小学校では、一九五五年(昭和三〇年)の修学旅行が伊勢であった。(私の卒業アルバムで確認)。茨木で

今も伊勢修学旅行に行っている二校のうちの一校が私の卒業校だ。

茨木市では、戦後のどの時点で、伊勢修学旅行が復活したのだろうか。

茨木小学校には私の卒業の前年までの卒業アルバムが残っている。それを見ると、一九五四（昭和二九）年の修学旅行先は「金比羅神宮・屋島」。その後訪ねた玉島小学校でも『創立五十周年記念誌 たましま』に、一九五五（昭和三〇）年「金比羅旅行記念 楽しかった修学旅行」とある。ネット検索で調べると、戦後の一時期、金比羅神宮・屋島は関西の人気の修学旅行スポットであつたらしい。もしかしてこの時期頃まで伊勢修学旅行が圧倒的多数でなかったのかも知れない。

（三）玉島小学校では昭和五〇（一九七五）年代に伊勢く広島に転換した。教育委員会の資料より古い卒業アルバムが残っていて詳しいことが分かった。アルバムによると、「一九六四（昭和三九）年 伊勢」「一九六八（昭和四三）年 伊勢」「一九七五（昭和五〇）年 伊勢」「一九七七（昭和五二）年 広島」「一九七九（昭和五四）年 広島」とある。それ以降は広島が続いている。茨木市立玉櫛小学校でも一九八〇年代に広島修学旅行に移行している。

（四）現在の中学校の修学旅行の行き先は長崎、沖縄、信州がほぼ同数（各四く五校）であつた。ひとつ気になることは「元特攻基地知覧」（鹿児島県）への修学旅行があることだった。昨年度の「修学旅行の行程表」を全校分入手し、天王中学校の行き先を見ると、「知覧特攻平和記念館 講話、平和セレモニー」とあり、

どのような内容が行われたのか大変気になった。

*元特攻基地・知覧（鹿児島県）

「かつて陸軍航空基地があつた知覧（南九州市）は特攻戦跡として知られている。旧基地跡に設けられた特攻平和観音堂や知覧特攻平和会館には、長崎原爆資料館や沖縄県平和祈念資料館に匹敵する来訪者が訪れている。だが（中略）特攻出撃は知覧住民の体験ではない。」

福岡良明著『「戦跡」の戦後史』（岩波書店）

〈大阪市〉

（一）大阪市教育局委員会を訪ねる前に、元同和教育推進校の校長だった〇さんに会い話を聞いた。大阪市は戦後一貫して伊勢修学旅行が体制であつた。〇さんが経験した伊勢く広島への推移について記憶を辿ってもらった。「一九七五（昭和五〇）年く一九八二（昭和五七）年 大阪北視覚支援学校（盲学校） 伊勢志摩」「一九八三（昭和五八）年（同） 答志島」「一九八四（昭和五九）年（同） 広島」「一九八五（昭和六〇）年 加島小学校 不明」「一九八六（昭和六一）く二〇〇三（平成一五）年（同） 広島」「二〇〇四（平成一六）年く二〇〇六（平成一八）年 城北小学校 広島」「二〇〇七（平成一九）年 高殿南小学校 伊勢志摩」「二〇〇八（平成二〇）年（同） もくもくファーム 三重」「二〇〇九（平成二二）年く二〇一二（平成二四）年（同） 広島」。大阪市内において一九八〇年代後半、徐々に伊勢から広島への転換があつたことが分かる。〇さんの話では、「現在も広島に行っているのはほとんど「同和教育推進校」で、

それ以外は現在も伊勢志摩方面である。校長会と近畿日本ツーリストの結びつきは強い。」とのことだった。

(二) 大阪市教育委員会の「大阪市修学旅行行き先一覧」(表一)、と「令和四年度(小・中学校)修学旅行計画」を入手した。資料は平成二五(二〇一三)年以降しかなかった。それによると、三重(主に伊勢・志摩)方面は、なんと七〇%を越えていた。その内、何割が伊勢神宮を参拝しているか興味のあるところだった。これについては後で記す。

(三) さらに、同市の二〇二二年度修学旅行の「行程表」全校分を請求、入手したが、大変気になることがあった。伊勢神宮を選んだ小学校は二一校(二〇二一/令和三年の「三重方面」の総数が二〇〇校)で、三重方面の一割が伊勢神宮参拝をしている。これは非常に多いと思った。また「おかげ横丁(伊勢神宮のすぐそば)」「二時間」(中本小学校)、「おかげ横丁(一時間半)」(友渕小学校)があり、自由行動のなかで伊勢神宮参拝がされていると思われる。さらに異常に長い内宮見学(開平小学校)「八時五二分〜一二時五〇分(昼食も含む)」まであった。

*おかげ横丁 伊勢神宮皇大神宮前にあるお蔭参りで賑わった江戸時代末期から明治時代初期の鳥居前町の町並みを再現した観光地。運営は伊勢名物赤福餅を生産・販売する株式会社赤福の子会社である株式会社伊勢福が行う。おほらい町の中ほどにあり、伊勢志摩を代表する観光地となっている。

(四) 中学校では、旧特攻基地知覧に行っている学校が三校(大和川中学校、茨田北中学校、此花中学校)あった。その学習内容が大変気になる。

大阪市修学旅行行き先一覧 (弘済分校含む・夜間学級含まない)

表1

【小学校】

	三重方面		広島方面		その他方面		白浜	淡路島	その他
	校数	割合	校数	割合	校数	割合			
平成25年度	235	78.30%	45	15.00%	20	6.70%	7	8	5
平成26年度	227	76.20%	48	16.10%	23	7.70%	8	9	2
平成27年度	223	75.90%	47	16.00%	24	8.10%	9	8	11
平成28年度	213	72.95%	49	16.78%	30	10.27%	12	8	10
平成29年度	210	72.41%	52	17.93%	28	9.66%	11	10	7
平成30年度	207	71.62%	54	18.69%	28	9.69%	12	11	8
平成31年度/令和元年度	206	71.28%	55	19.03%	28	9.67%	13	10	10
令和2年度	203	70.49%	52	18.06%	33	11.46%	15	10	8
令和3年度	200	69.70%	56	19.50%	31	10.80%	15	9	12

重複回答あり

〈東大阪市〉

(一) 東大阪市教育委員会を訪ねるとともに、当時知り合いだった退職教員の〇さんに会い、当時の伊勢修学旅行について話を聞いた。彼女は、私が東大阪市立長瀬南小学校で伊勢修学旅行を引率した同時期に、東大阪で伊勢修学旅行を経験していた。「一九七一（昭和四六）年に太平寺小学校当時、修学旅行は伊勢であり、参拝の際に「札」をしない取り組みをして、ギリギリの抵抗をした。」その後（時期ははっきりしないが）伊勢から二見ヶ浦に変更させた。「一九八五年頃（これも時期ははっきりしない）、柏田小学校では伊勢から広島に変わった。」とのことだった。

(二) 五十年ぶりに長瀬南小学校を訪ねた。残念ながら、私が担任した当時の卒業アルバムは残っていなかったが、次の年（一九七二年）のアルバムがあった。伊勢だった。なお私の所有する当時のクラス写真のアルバムには、「修学旅行記念 真珠島」（昭和四六年五月一五日）がある。

(三) 東大阪市教育委員会教育室教育室が開示した「東大阪市修学旅行一覧」（表二）は二〇一七（平成二九）年以降の資料だった。二〇一七（平成二九）年 三重（九） 広島（四一） その他（一九）とあり、直近の二〇二二（令和四）年は、「三重（二） 広島（四七） その他（二）／播磨・淡路島」となっていた。さらに公開させた「修学旅行目的地」にも、「三重 二」「播磨 一」とがあり、その詳細をさらに開示請求した。

(四) 二〇二二年の「三重」の中には伊勢神宮参拝はなかったが、「播磨」が兵庫県の元特攻基地の鵜野飛行場見学で、縄手東小学校が行っていた。公開させた「修学旅行のしおり」には、鵜野飛

【東大阪市】修学旅行行き先一覧
【小学校】

表2

	三重方面	広島方面	その他方面	(その他内訳)
平成29年度	9	41	19	兵庫
平成30年度	6	44	1	兵庫
令和元年度	3	48	0	
令和2年度				コロナのため
令和3年度	4	43	4	兵庫・USJ 日帰りも含む
令和4年度	2	47	2	播磨・淡路島 日帰りも含む

行場資料館での「平和セレモニー」「平和学習講話」「飛行場、防空壕めぐり」とある。その学習内容が大変気になる。中学校で知覧に行っている学校はなかった。

＊元特攻基地鵜野（兵庫県のうずらの）

鵜野は最近加西市など旧海軍の特攻基地ゆかりの四市が提携し、戦争遺跡めぐりや農漁村体験をセットにした「平和ツーリズム」を提唱し、修学旅行に特攻の戦争遺跡を巡るツアーを宣伝している。

平野次郎著『「平和教育」の名で「特攻賛美」にならないか』

「週刊金曜日」一三九六号

おわりに ― 修学旅行の今へ ―

以上、見てきたように一九八〇年代に大阪府下の修学旅行は伊勢から広島に変わって行った。その背景にあったのは世界的に進んだ反核平和運動、地方自治体での非核都市宣言運動など平和運動が進んだことがあった。また教育においても差別を許さない部落解放教育運動と平和教育とが結びついて取り組まれたことがあった。三市の修学旅行が広島に転換していったのは「同和教育推進校」が牽引となっていた。

昨年八月末から大阪府下三市における戦後の修学旅行の推移について調べ始めたが、ずいぶんと時間をかけた割には事実関係の概要しか明らかにならなかった。残念だったのは、一番知りたかった戦後米軍占領期の伊勢修学旅行の資料が三市では見つからなかったことだ。伊勢修学旅行が占領期の中断を経て、いつ頃復活

し、その後どのようなようにして伊勢修学旅行が支配的になったのか、はつきりさせることができなかった。

また、気になるのは、三市において今も伊勢修学旅行が残っていることだ。大阪市内の小中学校においてはかなりの数だ。実際のところ、伊勢神宮に参拝させている教員はどのような現状認識と、思いで伊勢修学旅行を引率、指導しているのだろうか。また子どもたちはどんな気持ちで伊勢修学旅行を経験しているのだろうかを知りたい。また保護者の想いはどうなのか。そこに立ち戻り、今後はさらに現在の修学旅行を見て行きたい。

さらに調査が進んで大変気がかりなのは、戦争中の元特攻基地を修学旅行の行き先に行っている小中学校が少数であるが現れていることだ。中学校で鹿児島県の知覧、小学校では兵庫県の鵜野だ。これについても元特攻基地見学がどのような内容で取り組まれているか詳しく知りたい。現在の伊勢、元特攻基地へ行って見る必要があると強く感じている。

最後に教員としての私の修学引率体験がその後どのように続いたかについて書いておく。私は一九七二年に東大阪市から高槻市立富田小学校に転勤した。当時高槻市には伊勢修学旅行はすでになく、富田小学校は岡山県蒜山高原に行っていた。私の学年集団が一九八一（昭和五六）年に広島県の修学旅行に切り替えた。前年、広島県の修学旅行を先駆的に始めていた松原市立布忍小学校の修学旅行に見学参加し、一部始終を学んだ。語り部の佐伯敏子さんと出会い、翌年富田小学校の修学旅行で体験を語っていただいた。また折り鶴の会の川本一郎さんと韓広順（カンズン）さんにお話していただいた。養護老人ホームで被爆者のおじいさん、おばあさんにもお会

いした。この富田小学校の取り組みは、高槻市内の広島修学旅行の嚆矢となった。佐伯さんとは亡くなる二〇一七年まで交流が続いた。一九八六年に高槻市立第四中学に転勤し、翌年、信州から長崎に行き先を転換した。語り部の被爆者の方が被爆した当時の場所に立ち、六クラスの生徒がお話を聞いた記憶が今も新しい。これが高槻市の長崎修学旅行の最初となった。その後芝谷中学校でも長崎修学旅行に取り組み、定年退職する前年、柳川中学校で沖縄修学旅行に取り組んだ。この時、市内ですでに数校が沖縄の修学旅行に取り組んでいた。

思い返すと、私の教員経験のなかで修学旅行が大きな比重を占めていた。今も広島との関わりを持ち続けている。コロナ禍で中断していた広島訪問を昨年復活し、今年も六月に広島を訪ね、被服支敝など新たな訪問をする。今も小中学校でどのように広島修学旅行が取り組まれているか強い関心を持っている。

最後に東大阪市の情報公開については、チョンジョン 丁章さんに変なお世話になった。感謝します。

(二〇二三・七・五)